

◁研究会報告▷

UVSOR 研究会報告

分子科学研究所 UVSOR 施設 鎌田 雅夫

分子科学研究所 UVSOR 施設では、毎年研究会を開催し、UVSOR を利用した研究の成果発表、関連分野の先生方による招待講演、施設職員とユーザーとの親睦などを行っております。今回は、第13回目に当り、去る12月13日と14日に下記の要領で行いました。第1日目は、木村施設長の挨拶の後、UVSOR 施設から磯山と鎌田が光源および観測系の現状報告を行ない、それに引き続いて、東北大学の佐藤先生に「SOR 利用の光学素子」、KEKPF の宮原先生に「円偏光分光システムとその利用」、阪大の菅先生に「スピン偏極光電子分光」の御講演をして頂きました。また、木村施設長が来春停年退官されるご予定なので、「UVSOR と分子科学」と題して、いままでの先生のご研究と UVSOR との関わりなどをお話頂きました。また特に今回は UVSOR 施設ができて10周年目に当ることでもあるので、今後の UVSOR のより良き利用を目指して、ユーザーの皆様方の要望やご意見などを披露して頂きました。また、施設側からもユーザーの方々への要望を述べさせて頂きました。日頃気がつかない大事な点を数多く御指摘頂き、またこのような相互のコミュニケーションの大切さを痛感致しました。その夜は恒例の懇親会が開かれ、技官の方々の手作りの料理に舌鼓みを打ちながらの議論や団らんが夜半まで続きました。2日目は各ユーザーの成果発表が行われ、気相、固相、表面、生体と多様な内容で、いまさらながら放射光利用の幅広さを再認識致しました。なお、研究会の出席者は北は北海道から南は九州までと地域的にも幅広く、その数は約60名

でした。

プログラム

12月13日 (金)

挨拶	分子研	木村 克美
UVSOR 光源の現状	分子研	磯山 悟朗
UVSOR 観測システムの現状	分子研	鎌田 雅夫
SOR 利用と光学素子	東北大	佐藤 繁
円偏光分光システムとその利用	KEK	宮原 恒昱
スピン偏極光電子分光	阪大	菅 滋正
UVSOR と分子科学	分子研	木村 克美
フリーディスカッション	参加者全員	

「UVSOR に望むこと…より良き利用を目指して…」

12月14日 (土)

$\text{CH}_3^+ \rightarrow \text{CH}_2^+ + \text{H}$ 解離反応における過剰エネルギー分配	分子研	古屋 謙治
シンクロトロン放射分光による NO, CO の高励起状態の観測	分子研	見附孝一郎
OCS の 1 ~ 3 価陽イオンの生成と解離	阪市大	増岡 俊夫
SOR 光の偏光特性を利用した光解離過程の異方性の研究	東大	永田 敬
磁性体のサブミリ波 ESR と遠赤外分光	神戸大	太田 仁
筋蛋白質の低温蛍光顕微分光	名大	谷口美恵子
単バンチパルスを用いたアルカリハライドの STE		

発光の時間分解測定	京大	神野 賢一	Na担持アルミナのNa K-edgeのXAFSと表面反応性	学芸大	長谷川貞夫
高導電性ポリアセチレンのUPS			固体表面に吸着した金属錯体の光化学反応	分子研	浮須 祐二
C ₆₀ 族アルカリ金属化合物の光電子分光	名大	神谷 幸司	放射光励起によるエッチング反応	豊橋技科大	大橋 治彦
カーボンクラスターの軟X線吸収スペクトルによる研究	東北大	高橋 隆	アンジュレータ光によるアルカリハライドのスパッタリング	分子研	鎌田 雅夫
超臨界流体の中のクラスター状態	東北大	田路 和幸			
	神戸大	中川 和道			

◁研究会報告▷

第9回PFシンポジウム報告

第9回PFシンポジウム実行委員長 石川 哲也 (東京大学工学部)

表記シンポジウムは、平成4年1月9日、10日の二日間、高エネルギー物理学研究所に於いて開催された。当初は平成3年11月に開催する予定で準備が進められてきたが、会場の都合で年初の多忙な時期に変更せざるを得なかったことをお詫びしたい。それにも拘らず、例年を上回る179件のポスター発表と260余名の参加登録があったことを実行委員一同深く感謝している。

この日程変更に伴い、当初PFニュースとフェイズを合わせて予定されていたプログラム発送等を独立に行わざる得なくなった。このために、事前に参加申込を頂いた方以外の方へのプログラム発送が行えなかったことは誠に残念であった。当日のプログラムは、記録の意味を込めてPFニュースに掲載される予定である。

ポスター件数が増大したこと、ポスターの内容が充実したことによって、1時間半では廻りきれないとの御指摘を多数の方から頂いた。また申込締切時点で用意可能なパネル数に迫る申込件数

があり、例年行われている電話による「追加募集」を行わなかったためにポスターを出しそびれた方々には深くお詫びしたい。

当日は、高良、佐々木、富家、田中名誉教授諸先生のお元気な姿を拝見することができ、また現役当時と変わらぬ活発な議論を拝聴することができた。これは、若い世代の一層の奮起を促すものであった。

この規模の会議の日程を変更することは、実際に大変な作業であり、二度とないように関係者に要望するが、この大変な作業を例年の数倍の作業量でこなし、なんとか例年並の開催にこぎつけることに多大な貢献のあった実行委員諸氏 (KEK - PF伊藤健二氏、宇佐美徳子氏、渡辺信久氏、電総研 大柳宏之氏、NEC 秋本晃一氏) に感謝するとともに、岩崎施設長をはじめとするPFの方々、および菊田会長をはじめとするPF懇談会の方々の御援助にこの場を借りて感謝の意を表したい。